

一層強力に要望活動に取り組む

全国女性税理士連盟は、昨年迎えた創立60周年をひと区切りとして、新たな10年に向けて歩み始めた。その舵取りを任されたのが、第61回定期総会で会長に就任した毛利さん。

「女性が社会で働くことが困難な時代を開拓してこられた女税連の先輩方と身近に接し、その先見性や識見の高さに尊敬の念を禁じえない。この無形のエネルギーを女税連の伝統として、次の世代に橋渡しをして行くことが、私の役割であると思う」と決意をにじませる。

全国女性税理士連盟会長

毛利 麻子 さん



全国組織活性化特別委員長時代には、「60周年に向けて、めざせ会員2000名」のス

ローガンで会員増強に尽力し、リーダーシップを発揮する一面も。

また、同連盟が長年にわたって要望活動を行っている、「民法における選択的夫婦別氏

制度の導入」「所得税法56条の廃止」「配偶者控除の廃止」の問題

では、「今、かつてない程男女共同参画社会実現への社会的気運が高まっている。これを追い風として、より一

層強力に、対外的な要望活動に取り組んでいきたい」と強調した。趣味はオペラ・クラシック音楽鑑賞、海外旅行。信条は「知・情・意」「和魂洋才」。京都市出身。(森)

